



この話は 東浦の杉津に伝わるむかしむかしの話です。山と海の生活の中に 龍やテングの出てるのも又自然といえるでしょう。

そのむかし、岡崎に美しい娘がいて 西浦に住む猪ヶ龍が好きになり 娘は龍に姿をかえ沖に出てあいびきを楽しんだ。あいびきの時は海がたいへん荒れた。

「また今日も海が荒れとる。これでは魚もとれん。困ったことだ。何か良い方法はないものかのう」

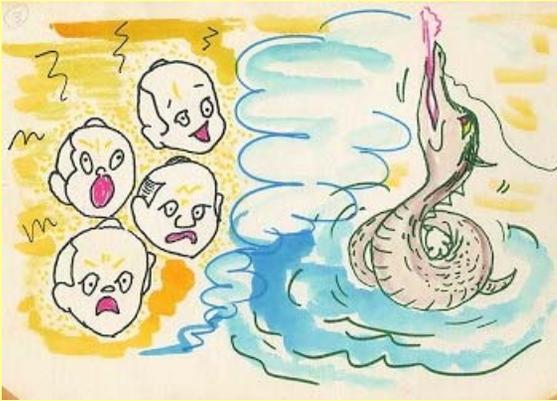
「ウーン ナベやカマをたたいて追いはらったらどうだ」

「ええと思うげな」

あいびきをじゃまされた龍はおこって くる日もくる日も雨を降らさなかった。

「毎日毎日こんなに雨が降らんのは 龍のたたりかもしらんなー」

「そうやなー 田んぼの水も 飲む水も もうなくなるし 何んとかせな あかんな」



「おかざきの姫龍」

杉津の民話

1/3



「そうじゃ 龍が大事に持っている玉を取り出せば雨を降らしてくれるかもしれんぞ」

「そうじゃ」

「うん そうしよう」

村人は木の上にローソクを立て ほら穴の中に入っていった。なにしろ中はせまくてそのうえ深かった。

「オイ こんな所に穴があいているぞ。のぞいてみるか」

「オー これは龍宮城や。オイ 姫龍のやつ寝ているぞ。この間に玉を取り出そう」

めぐみの玉を取ると 村人は一目散に泳いで出口に逃げ出した。そのとき

「こりゃ 何者だ。何を持っている。玉、玉だな。姫の大事な玉を返せー。待てー」

「ヒャー 助けてくれー」

「おかざきの姫龍」

杉津の民話

2/3



岡崎山のテングに見つかり 村人は命からがらかけもどってきた。

玉を取られた姫龍はたいへん困って 村人の姿になり

「玉を返して下され。その玉がないと私は生きていけません。どうかお願いします。返してくれるなら 雨を降らしてあげましょう」

そこで村人は玉を返すことにした。すると

「オー めぐみの雨じゃ。もっと降れもっと降れ。もっと もっと もっと降れ。田んぼは生き返ったぞうー こがね色の波じゃ」

「よかった」

「雨だ」

龍の降らした雨は村をうるおした。

今でも月夜に岡崎の方を見ると 美しい姫龍の姿がボウーと浮ぶそうです。



「おかざきの姫龍」
杉津の民話